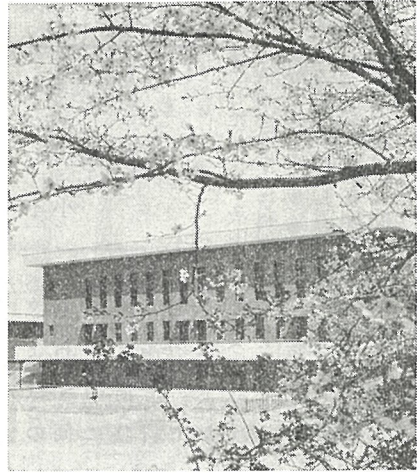




香里中高の礼拝堂は、昭和五十二年三月八日に献堂式をおこないました。今までの講堂より一回り大きくなり、本校の中心的な建物となり面目は一新されたものです。講堂は昭和十六年第二山水中学校が建設されたときのもので、建築後三十五年近く経過、老朽化し危険な状態になっておりましたので、建て直しをせまられていたのですが、その機会が得られず、いちおう生徒が日常利用する教室、体育館等が完成されましたので、同志社創立百周年記念事業として礼拝堂の改築を考えましたのです。

同志社香里中高礼拝堂改築について

紹介

阿南里士

昭和五十年当初より校内に建築委員会が設置され、礼拝堂、図書館、本館を含めて検討されましたが、全部を建設するのは膨大な資金が必要で、社会事情より不可能なことです。この結果、最少必要なものである礼拝堂に限ることにして、基本設計を本部施設課へ依頼し、検討を進めてきました。同時に、PTAに百周年記念募金を依頼しましたところ、全面的な協力が得られ、募金特別委員会の設置が決定されました。礼拝堂の設置場所ですが、地質調査等により、講堂並びに本館の一部をとりこわし

た跡地が最適との結論に達しました。十二月に礼拝堂の建設が最終的に内定し、設計を本部施設課、渡部設計事務所、建築は戸田建設にお願いすることにし、準備を進めたものです。昭和五十一年一月理事会に提案しましたが、不備な点があり、設計の手直しをし、再度四月理事会に提案し議決されました。一方、大阪府、寝屋川市に対し、宅地造成、建設についての基本的な了解を求め、建築確認を求めたものです。五月末をもって、三十五年間各種行事等に使用された旧講堂の使用を中止し、解体工事に着手したものです。老朽化したとはいえ、長年利用した建物の解体には、一まつのさびしさを感じましたが、より良いものの建設のためにはやむを得ないものです。幸いすべての手続きが無事完了し、七月二日、現地において盛大に起工式がおこなわれました。好天に恵まれ、総長、理事長、関係者一同の出席を得て厳粛におこなわれ、工事の無事を祈ったものです。梅雨期に入りましたが、天候も順調であったので基礎工事も終わり、鉄骨の組み立ても予定どおりに終わり、夏休み後には骨格ができ



礼拝堂

ありがとうございました。十月には館名を香真館とすることが建築委員会で決定しました。これはヨハネによる福音書十四章六節の聖句で、「私は道であり、真理であり、命である」より、香里の丘で真理探求の場として日常利用されることを願ったものです。十一月にはスタンドグラスの設計のため、東京より田中画伯をおまねきして、現場を直

接見て、二月末までに完成するよう依頼しました。工事も順調に進み、十二月末には外装工事もほとんど終了し、内装に入ったものです。十二月二十七日より急に寒さが厳しくなり、コンクリート打ちをおこなっても凍結の恐れがあり、幸い正月休みに入るので無理を避け、新年より再開することにしたものです。昭和五十二年になり最後の仕上げ工事も急ピッチにおこなわれ、二月末までに付帯工事である植樹も完了し、予定どおりできあがりました。

三月八日、多数の来賓はじめPTA関係者の出席を得て、献堂式は香真館で盛大におこなわれました。その節学校関係者、PTA役員一同のご援助には感謝いたします。午後にはオルホイスグリークラブ、マンドリンクラブ、吹奏楽部による演奏会もおこなわれ、記念すべき一日でした。なお、スタンドグラス、綴帳どんぐらの指定寄付を父兄より得られ、いっそう礼拝堂としての重厚さが増したこと、感謝いたします。

昭和五十二年三月十五日に香真館を初めて使って卒業式がおこなわれました。新装なった礼拝堂のこと卒業生にはよい思い出

になったものと思われます。

昭和五十二年度より日常の礼拝もおこなわれております。座席もゆったりとした個人いすで、指定席としたので出席もよくなり、学校礼拝としての意義がじゅうぶん理解されるとともに、その効果の向上に大いに役立っていることは、あらためて認識されました。秋には文化祭も香真館でおこなわれました。今までの講堂では講壇が狭く、特別に張り出し作業をしなければならませんでした。今後は広い講壇で綴帳も常時完備し、進行等にもよい結果が得られ、多数のかたの入場されたこと、喜んでおります。文化祭開会式に辻久子氏の記念演奏会のできたことに深い感銘を受けました。また十六ミリ映写機、スクリーンも常備し、すでに数回映画の上映もおこなわれ、礼拝のみならず一般の行事にも大いに活用されております。一年間利用して不備な点も種々ありますので、機会あることに改善していくつもりです。今後香真館が本校の教育に活用されることを祈念するものです。

(昭和五十三年五月記) (香里中・高校長)